



## 伊東市「按針祭」に3自衛隊が参加



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月10日（木）と11日（金）、伊東市の伊東港などで行われた「第71回按針祭」において広報活動を行った。

まず、10日（木）に伊東観光会館で行われた記念式典には、海上自衛隊横須賀地方総監部幕僚長・西成人海将補や自衛隊静岡地方協力本部長が列席したほか、海上自衛隊横須賀音楽隊により各国の国家演奏が行われた。

続く11日（金）には、伊東海岸壁において、海中の機雷や不発弾の処理を任務とする海上自衛隊横須賀基地（神奈川県横須賀市）の「水中処分母船3号」や、陸上自衛隊駒門駐屯地（御殿場市）第1戦車大隊の96式装輪装甲車、偵察用オートバイなどが一般公開され、小雨の降る中多くの家族連れなどが訪れた。

来場者の中には地元の中学生の団体もあり、普段は立ち入ることができない船内や船橋を興味深く見学するとともに、自らの任務や役割について話す乗員の説明に熱心に耳を傾けていた。

また、同日に観光会館で開かれたコンサートでは、まず航空自衛隊浜松基地（浜松市）の「龍武太鼓」が一糸乱れぬばち捌きと迫力ある太鼓演奏を披露し、続く横須賀音楽隊が美しく洗練された曲目を演奏するとともに「小林亜星メドレー」では笑いを誘うパフォーマンズを見せるなど幅広いレパートリーで、多くの観衆を魅了して祭りのフィナーレを飾った。

静岡地本は、今後も自衛隊と地域の連携を大切にしながら、自衛隊に対する関心や理解を深める広報活動を引き続き実施していく。

## 新隊員が母校を訪問し自衛隊をPR



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月12日（土）、今春自衛隊に入隊した隊員の母校訪問に同行した。

今回の母校訪問を行ったのは、夏季休暇を利用して帰省していた猪股正太二等陸士。浜松修学舎高校（浜松市）を卒業後に一般曹候補生として陸上自衛隊に入隊し、現在は留萌駐屯地第26普通科連隊（北海道）において職種に関する基礎教育を受けて日々訓練に励んでいる。

母校では当時在籍していた空手部顧問の教諭と面会し、近況を報告した後、後輩たちとともに空手の練習に参加して一緒に汗を流して指導を行った。

また、自衛隊に入隊して感じた魅力や教育隊での経験などを語ると、後輩たちは自衛隊での生活や訓練の様子に関心を示し熱心に質問をしていた。

顧問の教諭は「高校の頃に比べると見違えるように立派になった。元気に頑張っている話が聞けて嬉しかった」と大変感激した様子で話っていた。また、後輩たちからは「先輩の話聞き、同じように自分も自衛官を目指したいと思った」などの感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も隊員の帰郷に合わせて各学校への訪問広報を積極的に行い、自衛隊の教育の充実ぶりや各種制度への理解促進を図り志願者獲得に努めていく。

## 自衛官志望者が富士総合火力演習の現場を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、8月18日（金）、「青少年富士総合火力演習研修」に学生などを引率した。

これは、演習担任部隊である陸上自衛隊富士学校（駿東郡小山町）が企画し、自衛官を志望する学生などを対象に富士総合火力演習の準備段階の状況や部隊の現場を見学してもらうことで、自衛隊への一層の理解促進と受験意志の高揚を図るもの。

当日は、まず総合火力演習本番に向けた非実射訓練の一連の行動を見学し、昼食には隊員が訓練などで食べる携行食を体験喫食した。

午後からは、普通科部隊の宿営地において89式装甲戦闘車を見学し、その後戦車部隊の宿営地へ移動し、戦車を整備する様子や演習実施部隊が生活するテント、指揮所などを見学した。

参加者は「一般では見学できなかったのは貴重だった。隊の様子まで見ることができたのは貴重だった。また、部隊の方が分かりやすく丁寧な説明をしてくれて、更に自衛隊への興味が高まった」と話していた。

静岡地本は、今後も自衛隊志願者などに対して本物を見学する機会を積極的に設け、自衛隊への理解や興味を深めてもらうよう努めていく。